

文章を書く 夏目漱石『吾輩は猫である』（一）

吾輩は猫である。名前はまだ無い。
どこで生れたかとんと見当がつかぬ。
何でも薄暗いじめじめした所で
ニヤーニヤー泣いていた事だけは
記憶している。